

会 談 業 座 企 業 誘 致

この五年間に熊本県に進出した企業はすでに百社を超えています。経済構造の転換が問われる中で、やはり地元雇用の確保をはじめとする地域経済の浮揚や活性化のためには今後も企業誘致は必要と思われまます。この度、県内へ進出の大手企業四社のトップの方々にお集まりいただき熊本県への進出の理由や、今後の企業誘致のあり方についてござっくばらんに語っていただきました。

だから、熊本に進出しました。

まず、熊本へ進出された理由、また、そのメリットなどをお聞かせください。

中村 私の所は集積回路（IC）を作っています。一応世界一大きい工場だといわれています。熊本に工場を作った理由のひとつに、質



九州日本電気株式会社 社長 中村 秀

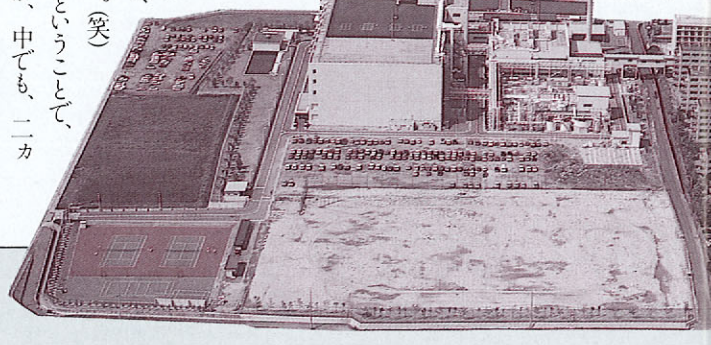
のいい従業員が得られるということがあったですね。昭和四十六年に操業を始めたのですが、それは今でも裏切られていませんね。同じ努力で、東京よりはるかに質のいい人材が採れますよ。

中西 私共の場合は、熊本で操業を開始して十三年になるのですが、当時、国内で生産拠点を拡大していきたいという願いがあり、一方でいろんな県から誘致のお誘いがありました。その中であえて熊本に決まりましたのは、阿蘇の麓に広大な土地が得られたこと、電力や工業用水の豊富さ。それに、良質の人材が確保できるということでした。

高嶋 うちの、IC、半導体の製造機器の製造・販売をメインにしている会社ですので、ICアイランドといわれる九州には是非進出したいと昭和五十六〜七十七年頃から検討を始めた。当初は、営業やサービスを五〜六十人でやっていくつもりで出てきたのですが、人を採り始めたら結構いい人材がどんどん集まったもので、急拠製作所を作ることになった。（笑）

河野 私共は、九州経済に貢献する会社をという事で、九州各県に工場を作り始めたのですが、中でも、二カ所も工場を持っているのが熊本なんです。熊本は従業員は素朴で仕事熱心で、本社のある関西方面の工場と比較しても二十％は能率がいいんじゃないでしょうか。人材の話がずい分出ておりますが、その他には――。

中村 プライベートなことですが、やっぱり暮らしやすい所だと思います。東京と比べると物価は安いし、住環境も、まわりの自然が非常に豊富です。東京から家



- 出席者
- 九州日本電気株式会社 社長 中村 秀
 - 本田技研工業株式会社熊本製作所 取締役社長 中西 清
 - 東京エレクトロニクス株式会社 九州事業所 所長 高嶋 浩
 - 九州松下電器株式会社 専務取締役 河野 昌孝
- （敬称略）

族ぐるみで引っ越してきた人はあまり帰らなかったですね。中にはもう居座ってしまっている人もいますよ。生涯賃金を考えると、給料が仮に一割くらい下がっても、熊本で生活する方が断然得ですよ。



本田技研工業株式会社 熊本製作所 取締役社長 中西 清

はるかに地元との協力関係がうまく行っていると思います。有難いことですね。

河野 インフラ等も県が大変熱心に手を付けておられますので、空港、あるいは道路網などが、他県、特に九州の中ではいいと思います。

高嶋 本当に、環境は抜群ですね。水も空気もいい。それでいて、車で十分もすれば都心部に出られる。時間のロスが少なくてすむし、東京のような大都市とも、田舎とも違う、中都市といった感じが非常にいいですね。

河野 まず技術面で優秀な人材がどれ位得られるかが課題だと思えます。熊本の工場でも約十パーセントが技術系の社員ですが、その質も量も絶対数がまだまだ足りません。今後も引き続き優秀な社員を集めないと、企業の存続発展は難しい。その点、県のUターンアドバイザー制度は大変重要で、有難く活用させていただいています。

中村 プライベートなことですが、やっぱり暮らしやすい所だと思います。東京と比べると物価は安いし、住環境も、まわりの自然が非常に豊富です。東京から家

人材の話がずい分出ておりますが、その他には――。

Uターン者の声

いいUターンが出来て、ラッキーでした。

株式会社通南九州システムエンジニアリング 杉原 健一

たまたま新聞でUターンアドバイザーのことを知り、今の会社を紹介されたのですが、極めてラッキーでした。私のようにこの制度を知ることのできる人は東京では少ないのではないのでしょうか。昔いた会社の同僚で石川出身の人がいたんですが、半年に一度程度パーティの招待があり、そこには同世代の石川出身者が集まっています。県の人から、石川の企業をいろいろ紹介してもらっているそうです。熊本でも県出身者を全員調べるのは難しいかもしれませんが、熊本にもいい企業はたくさんありますので、もっとPRしてもらいたいですね。

研究開発志向の企業を誘致して欲しい。

テル九州株式会社 松村 公治

大学院を出て、都会に就職したときから、いつかは熊本に帰ろうと思っていました。そしてたまたま、自分がやっていたプラント開発の仕事が見つかりましたから、Uターンアドバイザーの方のお世話になりました。熊本に帰って参りました。だから転社という感じはしても、転職という感じは全くしません。熊本は「食」「住」に関しては、申し分なく都会にいた時よりも豊かな生活ができます。しかし、Uターンを希望する技術者にとっては、研究開発志向の強い企業が少ないので、自分の実力が生かせる場が少ないようです。これからは、ベンチャーでもいいから開発志向の強い、元気のいい若い会社を誘致して欲しいと思います。そして、熊本に住んでいてもあきさせないような文化の基盤を築いて欲しい。知事が提唱している「熊本の文化を造る『新しい田園文化圏の創造』という構想は、すばらしいものと思います。そういった文化的な香りのする環境の中で、自分の能力が最大限に生かされる仕事が出来たら、というのが私の希望です。